**奥尻町地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン**

**１　地域の作物作付の現状、地域が抱える課題**

　当該地域は、北海道の離島では唯一の米の産地ではあるが、農業者の平均年齢は６５歳と高齢化が進み、担い手への団地化を含めた農地集積が急務となっている。

　しかし、平地が少なく基盤整備の遅れから、一筆当たりの水田面積が小さく、多筆で飛び地も多いため、担い手への農地の集積の弊害となっており、今後は、農地中間管理機構事業の活用の検討を図りながら解消していきたい。

　一方、水田における転作作物については、飼料作物、アスパラの作付があるが、水稲以外での農業経営の安定化を図るため、さらなる品質の向上を図り、ブランド化による産地形成を図る必要がある。

　また、近年は、配分される生産数量目標の減少により、不作付地が発生しており、水張面積の維持を図るため、加工用米等の米転作の推進・誘導が重要であり、畜産との複合経営農家についても、飼料作物の作付拡大を図る必要がある。

**２　作物ごとの取組方針等**

　島内の約８７ha（不作付地含む）の水田について、適地適作を基本として、産地交付金を有効活用しながら、作物生産の維持・拡大を図ることとする。

（１）主食用米

　　離島で唯一という希少価値、また高品質であることから、ブランド米として販売され

ているが、さらなる品質の向上に取り組み、安定出荷による農業経営の基盤強化を図る。

（２）加工用米

　主食用米との価格差を埋めるべく、収量増加の取り組みを行い農業者の所得向上を図

る。

（３）飼料作物

　畜産業は奥尻島で収益性の高い農業品目であることから、積極的に規模拡大を目指したい。飼料作物の収量増大と品質向上により奥尻牛を増頭させ、奥尻牛の増頭により飼料作物の需要を増大させるといった好循環化を図る。また、コスト低減や土壌改良に資する耕畜連携を積極的に推し進めていく。

（４）高収益作物(野菜等)

高収益作物であるアスパラを地域振興作物として位置づけ、単純な面積の拡大による農業者所得の向上を狙うと供に、面積当たりの収益を増やす取り組みを推進していく。

**３　作物ごとの作付予定面積**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 作物 | 平成29年度の作付面積（ha） | 平成30年度の作付予定面積（ha） | 平成32年度の目標作付面積（ha） |
| 主食用米 | 30.3 | 30.2 | 30.0 |
| 飼料用米 |  |  |  |
| 米粉用米 |  |  |  |
| 新市場開拓用米 |  |  |  |
| WCS用稲 |  |  |  |
| 加工用米 | 8.4 | 6.3 | 8.8 |
| 備蓄米 |  |  |  |
| 麦 |  |  |  |
| 大豆 |  |  |  |
| 飼料作物 | 18.9 | 19.5 | 20.7 |
| そば |  |  |  |
| なたね |  |  |  |
| その他地域振興作物 |  |  |  |
|  | 野菜・アスパラ | 1.1 | 1.1 | 1.3 |

**４　課題解決に向けた取組及び目標**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 整理番号 | 対象作物 | 使途名 | 目標 |  |  |
| 現状値 | 目標値 |
| １ | アスパラガス | 地域振興作物助成 | 実施面積収量 | (平成29年度)　　　　1.1ha　909kg/10a |  (平成32年度)　1.3ha　925kg/10a |
| ２ | 加工用米 | 加工用米助成 | 実施面積収量 | (平成29年度)　8.4ha　416kg/10a |  (平成32年度)8.8ha　　422kg/10a |
| ３ | 飼料作物(耕畜連携) | 耕畜連携助成 | 実施面積肥料コスト削減額労働時間削減効果 | (平成29年度)2.6ha7878円33.8時間 |  (平成32年度)　3.0ha9090円39時間 |
| ４ | 飼料作物(基幹作物) | 飼料作物助成 | 実施面積収量 | (平成29年度)　15.4ha　900kg/10a |  (平成32年度)　17.2ha 930kg/10a |

* 必要に応じて、面積に加え、当該取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してさ

　い。

※　目標期間は３年以内として下さい。

**５　産地交付金の活用方法の明細**

　　別紙のとおり